

平和学習まとめ





～平和モニュメント～



○「平和の祈り」像

平和都市宣言を記念し、国際平和
年にあたる昭和61年12月に平和を
願う区民からの寄付をもとに設置
しました。

高さ 1.5mメートル

材質 ブロンズ

作者 佐藤^{すけ お}助雄氏



○「平和の灯」

平和都市宣言5周年を記念し、平成2年8月に設置しました。

中央にガス灯が組み込まれています。

この灯には広島市の「平和の灯」と長崎市の「誓いの火」とともに、平和の願いを込めて火を合わせたいという区民や団体の火も合わせて、点火しました。

高さ 4m

作者 向井良吉 りょうきち



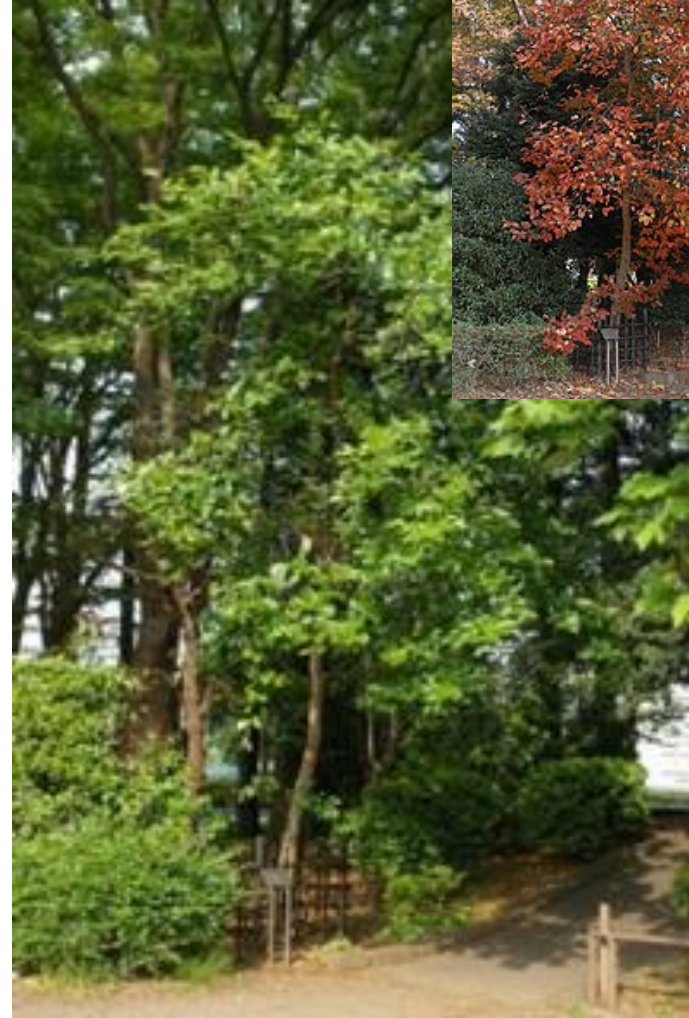
○被爆2世の木(アオギリ、柿)
平成4年に児童文学作家大川悦生氏^{えっせい}
より寄贈されたもので、平成7年に植
樹しました。

アオギリは、昭和20年8月6日、広島市に原爆が投下されたときに被爆した木の二世です。

柿は、昭和20年8月9日、長崎市に原爆が投下されたときに被爆した木の二世です。



↑ アオギリ



↑ 柿



○平和都市宣言とは…

世田谷区は、核兵器の^{はいぜつ}廃絶と世界に平和の輪を広げていくことを誓い、戦後40年の日にあたる昭和60年（1985年）8月15日に、国の内外に向けて平和都市宣言を行いました。

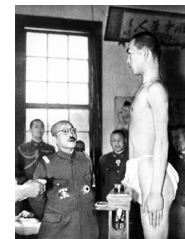
○世田谷公園

もともと1897年（明治30年）に設置された旧日本陸軍の「駒沢^{れん ぺい}練兵場」だった場所です。第二次世界大戦後に公共施設として整備され、1959年に公園として開園しました。

講習会編

昔は戦争に金をかけすぎて、弾を買うために国民が貯金をしその金で弾を買っていた。

20歳になると徴兵検査を受けることが、155cm以上が必要。また健康といえない体の人是不合格となっていた。だが戦況が悪化するにつれ規定を150cmに下げ、不合格になる健康状態の人無理やり戦場に出されていた。



中学2年生以上になると強制労働が待っている。



小学生も強制労働はないが、体育の授業の捉え方は今と違く、戦場で敵と戦い生き残るための体力作りや訓練と考えられていた。小学生の間で戦争ごっこというものもあった。



焼夷弾

ゼリー状のガソリンに
布製のリボンが発火し
て、落ちてくる様は、
火の雨に見えるらし
い。

〈戦争時の服装〉

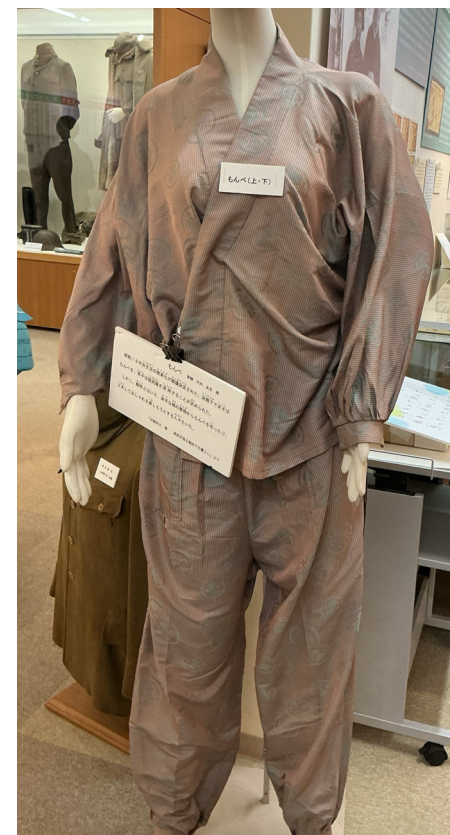
物資不足の中での活動のしやすさと統制を重視して簡素化されたものが特徴。

日本では男性用の「**国民服**」女性用の「**もんぺ**」が広まった。

また、軍隊では機能性を極限まで追求した「**軍服**」が各国で使用された。



▶ 軍装（制服）（一部）



▲ 上下のもんぺ

〈戦争時の教え〉

戦争中は、「**国のために命を捧げる軍国主義教育**」が子供の教えの中心とされていた。（現代では戦争の悲惨さ、命の尊さを伝える平和教育が行われている）



ハナ子さん一家「暁動員の巻」
主婦之友(昭和18年12月号)
朝から身支度を整え、一家で防空訓練に出たり、炊き出しや、町内の大詔奉戴式(毎月8日)に出ている様子や、お父さんの工場への動員などが漫画で面白おかしく描かれています。



◀戦争中の生活と衛生面
を捉えたかるた

「**天皇陛下のために戦い、国のために命を捨てることは名誉**」と教育されていた。学校では軍事教育や勤労奉仕が行われ、日常生活でも、「**贅沢は敵**」とされていた。



◀疎開時に食べられていたご飯

◎まとめページ

平和学習を通じて戦争時の人々の生活や戦争の悲惨さがよく分かりました。

「平和を守る」と聞くと規模が大きく難しく感じるけれど、生活の中から平和を作っていくことができると思います。

戦争は小さな対立、思いやりの欠如から始まります。

だからこそ、日常において、自分と違う意見を持つ人を否定せず、話し合いによってお互いを理解しようとする姿勢が、平和への第一歩になると思います。